

健康福祉学部・人間健康科学研究科ビジョン

多様な視点で研究・教育を進め、保健医療・健康科学を先導

東京都が設置する唯一の総合大学である本学の強みを活かして、当該分野の世界的リーダーとして、保健医療・健康科学領域における①独創的で優れた研究の展開を行い大学全体の研究力の発展に寄与し、②研究力を基に優れた高度医療実践家・教育者・研究者を育成するとともに、③教育・研究の成果を積極的に地域や社会に還元することで、全ての人々の健康増進に貢献します。

戦略1 高い研究力をさらに発展させる研究体制の構築と研究の社会還元

(1) 個々の研究者の研究力の一層の向上

部局の研究力の基礎は、言うまでもなく優れた資質を持つ教員一人一人の研究力です。個々人の一層の研究力の向上を図るため、研究への積極的な支援と大学運営にかかる教員負担の軽減を行います。さらに領域又は部局の重点研究課題を設定し、横断的な研究体制を構築してその達成に向けた支援を行います。

(2) 他部局との研究協働推進

様々な学問分野の研究者と顔の見える協力関係を構築できる中規模総合大学としての本学の強みを活かして、他部局との研究連携を多層的に推進します。部局間で大きな研究テーマを設定し、それぞれの部局の強みを活かした研究協働を行います。また、共通の研究課題解決のため、柔軟な研究体制を構築して共同研究の展開を図ります。さらに、個々の研究者の部局間共同研究を積極的に支援します。協働を進めることで、本学の掲げる基本理念「大都市における人間社会の理想像の追求」に研究面で貢献します。

(3) 東京都や荒川区、外部機関との産学公研究連携推進

東京都が設置する唯一の総合大学という立場を活かして、都や地元荒川区との連携を一層進めます。具体的には、都や各自治体の施策と連携して、協働体制で研究を推進します。また、都の設置する研究機関との研究を進め、お互いに有益な研究協力体制を構築していきます。さらに、この様な協働から生まれた研究の成果を積極的に都や自治体に社会還元していきます。加えて、本学には設置されていない医歯薬系学部や外部研究機関、さらに産業界等とも積極的に研究交流を進め、研究の力で全ての人の健康増進に貢献していきます。

(4) 高い次元での研究国際化推進

都市化、高齢化が急速に進んでいる世界の諸地域では、大都市東京と同様の健康諸課題が発生しています。その解決に向けて海外の保健医療系教育機関・研究機関と研究交流を積極的に進め、保健医療・健康科学の世界的研究拠点として活動し、研究成果を全人類の福祉保健に還元していきます。

戦略2 先進的な保健医療・健康科学教育の推進

(1) 専門職教育の深化

保健医療・健康科学の最新の教育・研究の成果を専門教育に取り入れ、さらに20－30年後の教育課題を常に見据えるとともに、国や東京都・保健医療界のニーズにも十分に耳を傾け、専門教育プログラム・教育支援体制を構築します。そして、単に我が国の教育のみならず、世界の保健医療・健康科学教育を先導する専門教育態勢を構築していきます。

また、専門教育の高度化により、大学院等での高度先進保健医療・健康科学教育がさらに普遍化していくことを踏まえ、研究科の教育プログラムを高度化するとともに、研究科・学部間のカリキュラムを連動させることで、学部の低学年次から大学院等の高等教育を目指すことのできるような体制を構築し、専門教育の深化を実践します。

(2) 教養教育推進

大学教育の学びの基本は基礎教養教育です。総合大学である本学の基礎教養教育を積極的に部局の教育プログラムに反映させ、新しい時代を生き抜く基礎学力、教養を身に付けるための教育カリキュラムを構築し、実践していきます。低学年のみならず高学年次にも新たな視点で基礎教養教育を学修する事を、部局として積極的に支援します。

(3) 多職種連携教育推進

保健医療分野では患者・相談者を中心に多くの専門職種が協働する多職種連携が当たり前になっています。多職種連携に関する教育・教育研究を推進し、部局のみならず本学の社会福祉系学生や、他学の医歯薬系学生も含めた真の連携教育を展開していきます。展開には荒川区をはじめとする自治体、医療機関、医歯薬系大学との教育連携も必要であることから、積極的に連携を進めます。

(4) 多様な進路を可能にする柔軟な教育態勢の構築

保健医療・健康科学の学修により、医療専門職資格の取得はもちろん、専門性を活かして様々なキャリアを展開することが可能です。医療者だけではなく、教育職、研究職、官僚、企業人として獲得した知識・技術・資格を有用に活用して活躍できる、多様なキャリア展開が可能となる柔軟な教育態勢を構築していきます。そのために、総合大学ならではの本学の力を活かし、他部局や事務組織と教育連携を進めます。

(5) 教育国際化推進

大都市において日本語を母国語としない住民が増加していることなどから、日本に居住する保健医療・健康科学専門職従事者にとっても、国際化教育は必須です。海外の保健医療系教育機関への学生の短長期留学、及び海外保健医療系教育機関からの留学生の受入れを行い、積極的な学生同士の国際交流を推進します。また、日本語を母国語としない者の学生としての受入れを推進するとともに、海外教育機関と協働して、保健医療・健康科学の卒前・卒後教育における国際共通プログラムの構築を進め、実施します。さらに、本学教員と国外教員との交換講義等も積極的に推進します。この様な多層的な教育国際化推進により、世界都市東京にふさわしい保健医療・健康科学教育の世界拠点を目指します。